

本庄市高校生プロジェクト「七高祭」合同文化祭が 「第30回ふるさとイベント大賞（ふるさとキラリ賞）」を受賞

本庄市高校生プロジェクト「七高祭」合同文化祭が、（一財）地域活性化センター主催の「第30回ふるさとイベント大賞」で、ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）を受賞しました。

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地の地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することにより、ふるさとイベントの更なる発展を応援するもので、大賞（内閣総理大臣賞）のほか最優秀賞（総務大臣表彰）など各賞が選考委員会で選出されます。今回で30回を迎え、第29回までに219の個性豊かなイベントを表彰しています。



【表彰式】

令和8年2月27日（金） ルポール麴町 ロイヤルクリスタル

【受賞内容】

「ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）」

本庄市高校生プロジェクト「七高祭」合同文化祭

【イベント概要】

市内の高等学校等に通う高校生が、学校や学年の垣根を越えて集まり、市民や地元企業等と連携して、市の魅力発信等に取り組むプロジェクトです。ワークショップやフィールドワークを通じて、地域の特性を知り、考え、その取組の成果を合同文化祭で発表します。また、合同文化祭では、市内高等学校が一堂に会し、部活動のステージパフォーマンスやブース出展等も行います。さらには、プロジェクトに参加した高校生が自身で「マチノブカツ」を立ち上げ、まちの人と関わりながら、卒業後も地域の魅力発信等に繋がる活動を続けています。

（※詳細は別添資料参照）

問合せ先

○本件記事に関すること

企画財政部 広報課 担当：福島、内田 電話：0495（25）1614

○広報全般に関すること

企画財政部 広報課 担当：谷田部 電話：0495（25）1155

【報道解禁】 令和8年1月26日(月) 14:00 以降

令和8年1月吉日

第30回ふるさとイベント大賞 各賞決定！

大賞(内閣総理大臣賞)は
「東京名物 神田古本まつり」(東京都千代田区神田)



地域活性化センターでは、各地域のイベントの創造・発展による地域活性化を目的とし、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを「ふるさとイベント大賞」として1996年に創設、表彰しています。この度、第30回の受賞8イベントが決定し、以下のとおり表彰式を開催いたします。

★表彰式★

日時: 令和8年2月27日(金) 10:00 ~ 11:30 (開場 9:45)

場所: ルポール麹町 ロイヤルクリスタル (東京都千代田区平河町2-4-3)

表彰式当日は、北川フラム選考委員長をはじめとする選考委員の皆様がプレゼンターとして出席し、受賞イベントの表彰を行う予定です。同時にYouTubeでライブ配信します。

※受賞団体への取材は12:30~13:30の間をお願いします。



※表彰式 YouTube ライブ配信はこちら
【URL: <https://youtube.com/live/e2KvR4QLUY4?feature=share>】

【問い合わせ先】

一般財団法人地域活性化センター 地域創生・情報広報グループ 地域創生課 担当: 竹村
TEL: 03-5202-6136 FAX: 03-5202-0755 E-mail: event@jcrd.jp
ホームページ: <https://www.jcrd.jp/>

●受賞イベント一覧

各賞	受賞イベント	自治体	主催団体
大賞（内閣総理大臣賞）	東京名物 神田古本まつり	東京都 千代田区	神田古書店連盟
最優秀賞（総務大臣表彰）	能代七夕「天空の不夜城」	秋田県 能代市	能代七夕天空の不夜城協議会
優秀賞（地域活性化センター会長表彰）	2025 千歳・支笏湖水濤まつり	北海道 千歳市	一般社団法人 国立公園支笏湖運営協議会
優秀賞（地域活性化センター会長表彰）	あやせ工場オープンファクトリー	神奈川県 綾瀬市	あやせ工場オープンファクトリー 実行委員会
優秀賞（地域活性化センター会長表彰）	トチノアカリ	新潟県 長岡市	トチノアカリ協議会
ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）	島の子ども応援まつり	沖縄県 石垣市	島の子ども応援まつり 実行委員会
ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）	本庄市高校生プロジェクト「七高祭」 合同文化祭	埼玉県 本庄市	本庄市広報課
選考委員特別賞（選考委員会委員長表彰）	関門海峡キャンドルナイト	福岡県 北九州市	関門海峡キャンドルナイト 実行委員会

●概要

全国各地の地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することにより、ふるさとイベントの更なる発展を応援するもので、大賞（内閣総理大臣賞）のほか最優秀賞（総務大臣表彰）など各賞が選考委員会で選出されます。今回で 30 回を迎え、第 29 回までに 219 の個性豊かなイベントを表彰しています。第 30 回の応募総数は 124 件、うち 8 つのイベントが受賞されます。

●応募対象イベント

令和 6 年 7 月 1 日から令和 7 年 6 月 30 日までに開催されたイベント

●選考委員会

- 【選考委員長】 北川 フラム 株式会社アートフロントギャラリー 代表取締役会長
- 【選考委員】 内原 智史 有限会社内原智史デザイン事務所 代表取締役
- 楓 千里 國學院大學観光まちづくり学部 教授
- 角田 光代 作家
- 中島 正信 全国知事会 事務総長
- 林崎 理 一般財団法人地域活性化センター 理事長
- 恩田 馨 総務省 大臣官房 地域力創造審議官
- 篠田 恵一 NHK コンテンツ制作局 制作主幹
- 吉本 光宏 合同会社文化コモンズ研究所 代表

「第30回ふるさとイベント大賞」実施要領

1 趣 旨

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントの更なる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

2 主催及び後援

主 催：一般財団法人地域活性化センター

後 援：総務省、内閣府、全国知事会、全国都道府県議会議長会、全国市長会、
(予定) 全国市議会議長会、全国町村会、全国町村議会議長会、地域づくり団体全国協議会、
日本商工会議所、全国商工会連合会、NHK、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、
全国地方新聞社連合会

3 対象イベント

令和6年7月1日から令和7年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベントとします。

※オンライン開催も対象とします。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含まれます。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外とします。

①直近の5回（第25回～第29回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント

※第24回以前の受賞イベントは再応募することができます。（別紙1参照）

②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

4 選考方法

応募用紙等をもとに、イベントプロデューサー、学識経験者などをはじめとした方々で構成される「第30回ふるさとイベント大賞」選考委員会において、選考基準（別紙2）に基づき審査を行い、各賞を決定します。

5 選考委員

「第30回ふるさとイベント大賞」選考委員は下記のとおりです。

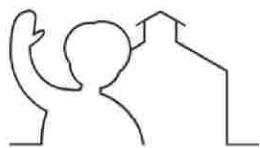
● 選考委員長	北川 フラム	アートディレクター
● 選 考 委 員	内原 智史	ライティングデザイナー
	楓 千里	國學院大學観光まちづくり学部教授
	角田 光代	作家
	吉本 光宏	合同会社文化コモンズ研究所代表
	篠田 恵一	日本放送協会コンテンツ制作局制作主幹
	中島 正信	全国知事会事務総長
	恩田 馨	総務省大臣官房地域力創造審議官
	林崎 理	一般財団法人地域活性化センター理事長

6 各 賞

● 大	賞（内閣総理大臣賞）	1 点
● 最 優 秀	賞（総務大臣表彰）	1 点
● 優 秀	賞（地域活性化センター会長表彰）	3 点
● ふるさとキラリ賞	（選考委員会表彰）	2 点
● 選考委員特別賞	（選考委員会委員長表彰）	1 点（該当がある場合のみ）

第30回 ふるさとイベント大賞 選考基準

	評 価 の ポ イ ン ト
企 画	・ 地域資源を積極的に活用している。 （地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など） ・ 独創性に溢れ、新たな地域の魅力を創り出している。 ・ 多くの人を惹きつける魅力がある。 ・ 魅力を増すための創意工夫が顕著である。
効 果	・ 地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。 （低予算でも波及効果が大きいなど） ・ 地域の知名度アップに貢献している。 ・ 地域住民の郷土意識の高揚に繋がっている。 ・ 伝統文化の継承や新しい文化の創造に繋がっている。
運 営	・ 地域住民が積極的に参加している。（参加することに誇りを持っている。） ・ 地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。 ・ 継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。



どこにでも行けるけど、
ここにいたい。本庄

広報ほんじょう

HONJO

まちを知るきっかけを作る情報紙

2025

4

別冊版：七高祭

本庄には、

七高祭
がある



本庄市高校生プロジェクト 2025 七高祭～ Colorful city with you ～

合同文化祭 2025.1.26 〈七高祭〉

初のカミケンシルクドームでの開催となった合同文化祭〈七高祭〉。ステージ発表やワークショップなど、盛りだくさんの1日を高校生たちは笑顔で駆け抜けました。



当日は約3,000人の方々に来場いただき、盛況のうちに幕を閉じた合同文化祭。

しかし「七高祭」はこの口1日だけではありません。合同文化祭に至るまで、高校生は、関わる大人たちとともに真剣に悩み・考え、地域に自ら足を運び、その過程自体が「まちの賑わい」となっていました。

そして、合同文化祭が終わった後も、その想いは失われずにまちの中で新たな賑わいを生んでいます。

◀これまでの七高祭、これからの七高祭を見よう！



詳しくは、
コチラ



そもそも高校生プロジェクトってなに？

市内には公立・私立を合わせて5つの高校と1つの特別支援学校（高等部）があり、人口規模に対して高校の数が多いことが市の特徴でもあり強みでもあります。市では、市内で学ぶ高校生を大切な地域資源と考え、平成20年から高校生プロジェクトを実施しています。

これまでの七高祭を振り返る



▲令和3年度：市の魅力発信冊紙の制作・写真展の開催



▶▼令和4年度：WEB上での合同文化祭、PR動画制作、広報紙制作



高校生プロジェクト 七高祭 ガイヨウ



▲令和5年度：課題解決型プログラム・合同文化祭・産学官連携プログラムの実施

このまちに関わる人
すべてをつなぐ「場」

コロナ禍を経て令和3年度にプロジェクトが再始動してからは、「高校生」はもちろん「市民」、「学校」、「行政」が関わりながら、七高祭でしかできない地域連携活動を行ってきました。今では、それぞれがより広く、より深く関わりあうことで、まちの賑わいを生む交流の「場」となっています。

令和6年度は、地域の特性や魅力を知り、4つのテーマに対してワークショップやフィールドワークを行い、特性をいかす方法や魅力の発信方法を考える「地域連携プログラム」、高校生が企画・運営し6校が一堂に介して行う「合同文化祭」の2つを軸に、地元企業と連携して商品開発等に取り組む「地域コラボ企画」や、「マチノブカツ」など、学校と地域の垣根を越えた取組が行われました。

今年度実施したプロジェクト

合同文化祭 P03

高校生が主体的に企画・運営する6校での合同文化祭を開催しました。

日時：1月26日(日) 午前10時～午後4時
会場：カミケンシルクドーム

地域連携プログラム P04-05

地域の特性・魅力を知りワークショップやフィールドワークを経た成果を合同文化祭で発表しました。

1. 福祉の推進
2. 児玉地域の魅力発信
3. 児玉駅周辺の賑わい創出
4. スポーツの推進

地域コラボ企画 P06

「Bakerys Kitchen ohana」、「本庄農業女子」「NINOKURA」の皆さんと商品開発等に取り組みました。

マチノブカツ P07

昨年度高校生が立ち上げた「sustaina部」「ゲーム部」が合同文化祭にブースを設置、取組を発表しました。



令和6年度の七高祭は〈吉本興業株式会社〉

の皆さんがサポート！

吉本興業所属の芸人の皆さんが約1年間、それぞれのプロジェクトに参加し高校生と伴走！笑いに包まれた和やかな雰囲気の中で、プロジェクトを導いてくれました。

03 児玉駅周辺 の賑わい創出

児玉ターミナル 2024 を開催！

今年も JR 東日本の皆さんと協力しながら、高校生たちは駅周辺を活用した賑わい創出イベント「児玉ターミナル 2024」の開催に向け、ワークショップやフィールドワークに取り組みました。

当日(10/20)は児玉駅周辺の魅力を知ってもらうために「謎解きスタンプラリー」



04 スポーツ の推進

関わってくれた方

田中 邦治さん

市グラウンドゴルフ協会 前会長



高校生にもグラウンドゴルフを体験してもらい、覚えがよく、教えが良かったです。ニュー・スポーツの参考になったのであれば、うれしいです。今回の体験をきっかけに、若い人にもグラウンドゴルフに興味を持ってもらいたいですね。

それぞれ取り組んだテーマは違えど、高校生たちはまちの賑わい創出について真剣に考え、そして実際にまちづくりの一助を担ってくれました。

プログラムをとおして見えた高校生の熱意は、まちの活気や賑わいにつながっています。

にぎ 無人駅に再び賑わいを

無人駅となった児玉駅周辺を「高校生のエネルギーで活気を取り戻したい！」と JR 東日本と協力し、駅周辺で賑わい創出イベントを実施した昨年度。地元の方たちや参加した高校生からの要望もあり、今年度も引き続き多くの方が楽しめるイベント開催に向け、皆でアイデアを出し合いました。



等を企画。同日開催の「児玉商工まつり」と合わせて、児玉駅周辺を回遊しながら楽しめるイベントとして、多くの方が参加しました。また、普段はシャッターが閉じたままとなっている旧改札窓口を開け、景品交換所として活用。訪れた地元の方たちは、シャッターが開いていた往時の懐かしさを感じていました。

関わってくれた方

飯塚 孝志さん

児玉商工会 事務局長

児玉駅周辺を高校生が実際に歩き、関わってくれたことで「高校生と交流できてよかった」という声も聞かれます。

何かに挑戦するとき、「高校生である」というのは、有効な武器だと思います。この武器でもって、地域の活力となってほしいですね。



皆で楽しめるニュー・スポーツを創る

本庄市が掲げる「市民・人1スポーツ」の理念のもと、高校生ならではの発想で「みんなが楽しく運動し、健康に過ごせるようなニュー・スポーツ」を新たに創ることに。高校生たちは、幅広い年齢層に楽しんでもらえるようフィールドワーク等を経ながら競技作りを試行錯誤しました。

高校生考案のユー・スポーツ「ビバルフ」&「BB（バンブボール）」フィールドワークやワークショップを経て、まず考案されたのがビリヤードとバターゴルフを合わせた「ビバルフ」。コーナーから外にボールを押し出すことで得点となり最終得点で競います。

また、「BB（バンブボール）」は、参加者が転がり落ちてくるボールをめがけてボールを投げ、ゴールを阻止するゲーム。



この2つのスポーツはスポレクフェスタ、合同文化祭の場で披露され、間口が広いながらも奥深い競技性に、参加者は熱中して楽しんでいました。

「考え方次第で誰でもスポーツを楽しめる」。この取組をとおして、高校生は誰もが健康に過ごしていくために不可欠なスポーツへの間口を広げてくれました。

地域の特性や魅力などを市民や行政とともに考え、探究・発信する「地域連携プログラム」。高校生らしいアイデアで、地域のために奔走しました。

地域連携プログラム

01 福祉 の推進

「福祉」をより身近に考えてもらう

福祉の推進には、地域の理解や協力が必要です。そのためには、少しでも「福祉」を身近に捉えてもらえるようにすることが大切と考えた高校生たち。自分たちには何ができるのかを考え、どのように伝えていくのがよいか、真剣に考えました。

劇で「福祉」の大切さをPR！

今回のプロジェクトでは、「おじいちゃん・おばあちゃんの毎日を支える福祉」をテーマに「高齢者福祉」に注目。

ワークショップやフィールドワークをとおしてどのような困りごとがあるのかを聞き、調べ、その解決方法を探りました。



行きついたのは寸劇。合同文化祭当日に「リプレイス〜助け合い〜」と題し劇を発表し、来場者向けに「助け合い」の大切さをわかりやすく伝えました。

どうしても固く捉えがちなテーマである「福祉」。しかし、高校生なりに親しみやすく伝えることで、観劇した方はより身近に「福祉」について考えることができた。

関わってくれた方

福田 浩二さん

本庄市社会福祉協議会

七高祭のような場合は、まわりの人が関わることで、新しい魅力を発見できるなど、多くの可能性を秘めていると感じました。

そこに福祉の視点も取り入れることで、誰もが心地よく過ごせる、温かい地域になっていくのではないかと思います。



02 児玉地域 の魅力発信

私たちが捉えた児玉の素敵な魅力

学校生活の中だけでは、里山をはじめとした地域の魅力に気付けない高校生も多い。そうした中で高校生たちは、フィールドワークをとおしてそこで暮らす方と関わりながら、その魅力を実感！高校生ならではのアイデアで、捉えた魅力をどのように発信していくのが良いか、考えました。

関わってくれた方

片桐 正富さん

二松菴 元店主

わたしたちの件でいる地域は過疎化が進み、若い世代が少なくなってきました。

こうした中で高校生が地域に関わってくれるのはありがたいですね。

ぜひ、今後も高校生の豊かな発想をいかして、地域の魅力発信の担い手になってほしいです。



児玉の魅力を集めたアートとパンフレットを作成！

魅力を発信するために、まずは地域を知りたい！ということで実施したフィールドワークをとおして、地元の方たちと関わりながら魅力を実感した高校生たち。

その際に、地元の方の笑顔や美しい風景を目の当たりにした高校生たちは、それ自体を地域の魅力と捉え、撮影した写



真を使ったアートの展示と、パンフレットを作成し、合同文化祭で発表することとしました。

当日は、フィールドワークを通じてつながった地元の方もワークショップを行うなど、ブースは訪れた方で人盛況。高校生の捉えた児玉の魅力は、訪れた方に確実に届いていました。

マチノブカツ 「七高祭のその後」

令和5年度の七高祭で、高校生それぞれが興味のあるテーマで集まり作った「マチノブカツ」。
そこで生まれた「気付き」から始まった活動が地域に根付き、新たな動きを生んでいます。

「気付き」から、新たな「動き」へ



七高祭がなければ、本庄の人とは関わらず駅と学校の往復で終わっていたかもしれません。
3年間関わった七高祭は、私にとってさまざまな大人と関わり刺激を得ることのできる場であり、いろいろな発想を受け入れてくれる場でした。



秋山 友花さん
早稲田大学本庄高等学院

七高祭から、高校生自身の活動へ

令和5年度に立ち上がったマチノブカツのひとつ「sustaina 部」。一人ひとりがごみ問題を自分ごととして考え、それぞれのやり方でアクションを起こして欲しい、という思いのもと活動しています。

テーマについて考える中で、東京都内で行われているごみ拾い活動とコーヒータイムを組み合わせて、まちの人びとのつながりを生み出す「Cleanup Coffee Club」の存在を知り、秋山さんをはじめとしたメンバーが参加。その活動に感銘を受けた高校生たちで「Cleanup Coffee



Club 本庄（CCC 本庄）」を立ち上げ、今日まで活動を続けています。

これまで気付かなかったごみの多さに気付いたり、多様な価値観を持つ人と話したりするなど、CCC 本庄の活動はまちを知り、まちの人とつながり、そしてさまざまな人が関わるきっかけを作っています。

私たちでもできるかも、という高校生たちの「気付き」、その気付きが今、まちの中で新たな「動き」へとつながっています。

「動き」が新たな「つながり」へ



今年初めて七高祭に参加しましたが、他校生、大人たち含めていろいろな人と接点をもてたのがうれしかったです。

地元は違いますが、いつも過ごしている本庄に七高祭が終わった後も CCC をとおして関わることができてよかったです。

大塚 隼平さん
早稲田大学本庄高等学院

今年初めて七高祭に参加した大塚さんは、1年間の活動をとらえて、さまざまな人と関わる中で、さらに深く本庄に関わりたと思ったそう。

そんな時に CCC 本庄の存在を知り、その活動に自ら参加。CCC の活動について聞くと、「心の居場所のような感じがしました」と、笑顔で語ってくれました。

秋山さんたち sustaina 部がまちの中で始めた活動が、次世代の高校生たちと、まちの間に新たな「つながり」を生んでいます。



寄り添う先生から見た「七高祭」

1年間七高祭を生徒とともに参加させていただきました。

お互いに学年を明かさずにワークショップに参加していたことで、上下関係なくフラットに意見を交せていた姿がとても印象的でした。

また学生・民間・公的機関の距離がとても近く、お互いがより広く、より深く関わり意見を交しながらプロジェクトを進められていたので、「考えたことをしっかりと形にできていた」のが素晴らしいかっと思ひます。

横瀬 隆さん
本庄高等学校 教諭



地元企業等と連携して商品開発等に取り組む「地域コラボ企画」。高校生ならではの「視点」と地域の方々の「知識」が混ざりあい、オリジナリティ溢れる商品が生まれました。

地域コラボ企画

Bakerys Kitchen ohana × 七高祭

七高祭オリジナルパン作り！

地域との関わりを大切に、地元生産者の皆さんとのコラボレーション商品も多数販売してきた ohana さん。

今回は七高祭とのコラボということ、高校生と一緒にオリジナルパンの作製に協力していただきました。

さまざまなパンのアイデアが出るなか



合同文化祭当日、売り場は大盛況！



で、最終的には本庄産ブロッコリーを使用した「ブロッコリーハヤシカレーパン」を合同文化祭で販売することに！

当日用意していた約350個のパンは、すぐに売り切れ。盛況のうちに販売終了となりましたが、その後、なんと ohana の店舗でもカレーパンを販売していただけることに！

高校生の想いとアイデアが詰まったカレーパンは、味わたった皆さんの身も心も「おいしさ」で満たしてくれました。



高校生独自の視点で商品企画を行う

自分たちでは気づかない、独自の着眼点で取り組んでくれて、楽しかったです。スタッフにとってもいい刺激になったので、機会があれば毎年一緒に取り組んでいきたいです。

久保田 浩司さん
Bakerys Kitchen ohana オーナー



本庄農業女子 × NINOKURA × 七高祭

日頃、高校生世代と交流することとはめったにないので、「農業に興味を持ちました」と言ってもらえてうれしかったです。

元氣よく先陣を切って取り組む生徒、物静かだけどフォローが万全な生徒など、それぞれができることを一所懸命に取り組みんでいたのが印象深かったです。

牧野 涼子さん
こだまの丘農園まきの（本庄農業女子）



本庄野菜で「ベジフラワー」作り！

今年の七高祭では、本庄野菜の魅力を発信している「本庄農業女子」さんともコラボ！メンバーの牧野さんと高校生で、本庄野菜を使った美しいベジフラワー作りワークショップを合同文化祭の会場で行いました。



本庄野菜を使った「ななっこ」を販売！

また、NINOKURA の小林さんにもご協力いただき、本庄野菜をふんだんに使ったつまみこならぬ七高祭特製の「ななっこ」を高校生とともに考案。

新鮮な本庄野菜のうまみが濃縮された「ななっこ」はまさに絶品。合同文化祭では、来場した多くの方が舌鼓を打ちました。



本庄野菜のうまみがぎゅっとつまった「ななっこ」

自ら考えて動く。そんな高校生の姿に、参加した自分自身がとても刺激を受けました。七高祭のような場があることで民間・行政だけではできないことが実現できるのは、まちにとっても素晴らしいことだと思います。

小林 由美さん
NINOKURA 蔵主

新鮮な本庄野菜の魅力を余すことなく伝える



このまちに関わる人、 すべてをつなぐ「場」

「いろいろな発想を受け入れてくれる場だった」「七高祭のような場があることで、できないことが実現できる」「さまざまな人と関わることで刺激をもらった」。

七高祭に関わった方々とおして見えてきたのは、このまちに関わるすべての人をつなぐことで、賑わいを生む「場」としての七高祭の姿。本庄には、七高祭がある。これからも人と、まちをつないでいく。

